

# シャイン

## — 受講のきっかけと今 —

シャイン 052号

## 私にしか出来ない 支援を目指して

### 柿崎 汐里さん

会社名：都内精神科病院 所属：相談室

役職：病棟ソーシャルワーカー

資格：産業カウンセラー、精神保健福祉士



「好きなアーティストのLIVEではしゃいでいる私です」

#### 【受講のきっかけ】

私は小さい頃から人と接することが好きで、学生時代から接客のアルバイトに就き、卒業後は地元の百貨店で販売の仕事に就いていました。毎日様々なお客様や従業員、取引先の方との交流があり、多種多様な会話をする事ができる楽しさと同時に、話を聴く難しさを感じていました。特に仕事や人間関係に関する悩みを抱え込んでいた同僚に対しては、何と云っていいのかわからずに悩んだことがありました。共感するべきなのか、励ますべきなのか、それともただ聴いてほしいだけなのか…。自分の対応によって、その人の選択肢が変わることがあるのではないかと、責任や不安を感じていたことを覚えています。そのことがあってから、自分にもっと何かできたのではないだろうか、もっと話を聴くことができたらと考えるようになりました。調べていく中でソーシャルワーカーという職業を知り、某福祉専門学校に1年間通学して精神保健福祉士の資格取得を目指すと同時に、もっと傾聴力を身につけたいと思い、同校で開講している産業カウンセラー養成講座を受講して産業カウンセラーの資格取得も目指すようになりました。

#### 【資格取得後の活動状況】

2020年4月、精神保健福祉士と産業カウンセラーの両資格を取得し、都内の精神科病院にソーシャルワーカーとして入職しました。前職の接客の関わり方とは異なる人との関

わりが多く、毎日悩みながらもとてもやりがいを感じています。

私が担当しているのは長期入院の方も多い慢性期病棟で、疾患や病状、年齢や性格など一人一人異なる為、関わり方も一人一人に合わせて工夫しています。例えば年配の患者さんに対しては目線を合わせ話すスピードを緩めたり、人との関わりを拒絶している患者さんに対してはタイミングを図り、最小限の面談時間を設けて少しずつ話を聴いていたりしています。患者さんだけでなく、ご家族や地域の支援者、他の病棟スタッフと連携して情報を共有することもとても重要です。そういったやり取りの中で、どんな時に症状が悪化するのかなどの疾患のことだけでなく、患者さんの好きなこと、興味のあることや希望していることなどを理解するように努めています。「疾患ではなく人を見る」ということを常に意識しながら支援を考えています。

始めは戸惑いもありましたが、産業カウンセラーの講座を受けていたことで話の聴き方に注意し、主訴や相手の気持ちに寄り添うということができているのではないかと感じています。もちろんまだまだ経験も浅く知識としても得なければならないことは多いですが、この仕事を志した時の気持ちを忘れずに、一人一人に寄り添いながら自分にしか出来ない支援を目指していきたいと思っています。

